

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第190号(2022. 12. 1)
事務局 川西地区自主防災会

【さぬき市】それぞれの地域・地区にあった 「防災・減災」活動の推進を目指して

かがわ自主ぼう連絡協議会
さぬき市：福山 武・多田 満・中島正人

【 さぬき市の概要 】

さぬき市は、2002年（平成14年）4月1日、香川県大川郡の津田町、大川町、志度町、寒川町及び長尾町の5町が合併して成立しました。今年度で「市政20周年」を迎えます。

人口は45,961人、世帯数20,851世帯（2022年10月31日現在）です。面積は約158.6K㎡です。地理的には、香川県庁所在地の高松市から東へ約15Kmに位置しています。

東は東かがわ市、西は高松市及び木田郡三木町、南は東かがわ市五名及び徳島県美馬市と接しており、北には瀬戸内海を隔てて小豆島があります。南の讃岐山脈から北東へ向かって津田川が津田湾へ、鴨部川が鴨庄湾へと流れています。さぬき市の大部分はこの2河川の流域です。

北部は、瀬戸内海に面し、小さな岬・半島の岩や礫の海岸と、砂丘が交互に織りなした海岸線です。浜堤の上には、津田・志度の町並みが古くから形成され、港町として栄えてきました。白砂青松の津田海岸は瀬戸内海国立公園で、「日本の渚百選」の一つに選ばれています。現在は志度湾の海岸は埋め立てられ、市街地や工業団地となっています。

中央部は高松平野と連なった平野が広がっており、大小のため池が美しい田園景観を形成しています。

南部は、自然豊かな讃岐山脈の山間部です。また、さぬき市は四国遍路88か所「結願（けちがん）のまち」です。海岸の志度には86番札所志度寺、平野中央の長尾西には87番札所長尾寺、讃岐山脈の多和には88番札所の大窪寺があります。志度から長尾、多和への道は遍路通であり、阿波（現徳島県）へと続く、交易の道でした。

「さぬき市ホームページより抜粋」



88 番札所大窪寺



87 番札所長尾寺



86 番札所志度寺



津田海岸（松原）

【さぬき市の地域毎の想定災害は---】

さぬき市は、前記の通り、大きく5地域（旧大川郡町区）に分かれます。北部の海岸線に位置するのが、津田地域と志度地域です。中央部の平野部と南部の山間部に位置するのが、大川地域・寒川地域・長尾地域です。ゆえにそれぞれの地域の地勢からみて、想定される災害も地域・地区毎に特性があります。（添付資料：さぬき市「地域毎災害特性」参照ください。）

各地域・地区の防災訓練も「想定災害」にあわせた訓練を行なっています。

【さぬき市地域毎に「起こりうる想定災害」は---。】

災害	内陸地域			海岸地域		備考
	大川地域	寒川地域	長尾地域	志度地域	津田地域	
津波	×	×	×	○	○	沿岸
高潮	×	×	×	○	○	沿岸
洪水 <small>（大規模な豪雨・台風）</small>	○	○	○	○	○	内陸 沿岸
土砂災害	○	○	○	○	○	内陸 沿岸
地震	○	○	○	○	○	
大規模火災	○	○	○	○	○	

（さぬき市「地域毎災害特性」）

志度地域

【鴨部地区自主防災会の活動状況】

1. 鴨部地区の概要

鴨部地区は旧志度町東部の周りを山に囲まれた盆地状の人口2千人足らずの純農村地域であります。地区内には県下の主要な河川の1つである二級河川鴨部川が貫流しており、周辺山腹の土砂災害とともに洪水被害の災害特性を有している。

地区内は28単位自治会があり其のうち23単位防災会が組織されているが、その8割の代表者の任期が単年度と短く、また高齢化により防災活動が低調であることから広域化が必要となり、平成26年3月に鴨部地区自主防災会が発足することとなった。



【鴨部地区 航空写真】

2. 自主防災会活動の取組み

鴨部地区自主防災会の発足時には冊子「鴨部地区防災のしおり」を発刊、全世帯に配布して説明会も開催しました。その後は年1回の防災訓練や講演会などを実施してきました。これまでの取組み内容は次のとおりです。

○平成27年3月

さぬき市都市計画課「住宅の耐震化」、一級建築士事務所「わが家の耐震診断・耐震化」

○平成27年12月

かがわ自主ぼう連絡協議会（岩崎会長ほか）・大川広域消防「各種の防災訓練」

○平成28年12月

かがわ自主ぼう連絡協議会（岩崎会長ほか）・大川広域消防「各種の防災訓練」



[岩崎会長 講話]



[炊き出し]



[担架搬送]



[ロープワーク]

○平成29年12月

香川県自主防災活動アドバイザー「地域の災害特性を反映した避難の方法について」避難所間仕切り組立訓練、発電機等防災会所有の機材操作訓練、土地の液状化現象についての簡易実験



[液状化簡易実験]

- 平成30年12月
さぬき市危機管理課「避難の知識について」
新聞紙スリッパ作成、ダンボールトイレ作成、炊き出し訓練
- 令和元年7月
市指定避難所への避難訓練、香川県自主防災活動アドバイザー「土砂災害及び洪水に関する講話」、大川広域消防「救命救急訓練」
- 令和元年12月
防災グッズ（家具転倒防止器具等）の取扱い、起震車体験
- 令和4年12月
さぬき市危機管理課「命を守るための心得—ハザードマップとタイムライン」

3. 市立北小学校との連携

○防災マップの作成

平成26年4月に小田小学校・鴨部小学校・中央小学校が統合して、「さぬき北小学校」となりました。開校間もない学校では児童の通学登下校時の交通安全・防犯について点検していたが、当時の校長先生から災害時の対応について、かがわ自主ぼう連絡協議会の岩崎会長に相談があった。そこで平成27年の真夏、かがわ自主ぼう連絡協議会のメンバーによって校区内の通学路をくまなく調査して防災マップを完成させた。

その成果はいまでも北小学校の廊下に掲示している。



[防災マップ校内掲示]

○避難訓練の支援

令和4年11月4日実施

鴨庄地区地域安全推進委員、大川広域西消防署の方々と避難所までの避難訓練を支援しました。



[避難訓練①]



[避難訓練②]

寒川地域

【石田地区の防災自主活動について】

石田地区は、さぬき市南部にある旧山手3町のうち寒川町の南半分に位置し、現在人口3,301人、戸数966戸、32自治会に分かれています。地区の中心部には、旧3町の地域社会の中心市街地となる公共的施設や住宅が密集しています。地理的には、香川県特有の瀬戸内海式気候に加えて、四国山地や讃岐山脈及び中国山地によって自然災害から守られた、非常に恵まれた環境です。また、さぬき市洪水ハザードマップでは浸水想定区域が無いいため、総体的に住民の危機意識の低さが問題と感じています。地震災害では、南海トラフ巨大地震を危惧する以上に、当地区中心市街地の地下を2本も走っている長尾断層破壊（直下型地震）の被害を想定した、防災訓練や防災活動に取り組んでいます。そういうことから、平成31年1月に32自治会すべてを包括した、石田地区防災部会を再結成して地域防災力の向上のため、防災訓練や研修会及び資器材の整備を行っています。

具体的には、以下のとおりです。

○防災訓練

- ・地震災害を想定して地区住民全てを対象に、毎年11月第1日曜日に防災訓練を実施。



地区内の危険性講習会



資器材展示説明



消火器・バケツリレー

○防災研修会

- ・長尾断層の直下型地震災害想定の視察研修



野島断層保存館〔北淡震災記念公園〕



阪神・淡路大震災記念館 語り部さん体験談

○防災資機材の整備

- ・補助金及び当石田地区全世帯より防災部会費を毎年徴収して、資器材整備や防災活動に反映しています。



防災倉庫



防災第二倉庫



横内防災倉庫



【 今後の活動について 】

(かがわ自主ぼう連絡協議会 さぬき市)

1. 地区毎の防災活動支援と推進 (行政との連携により)
 - ①各地区単位の防災活動の支援と推進
 - ②各自治会への出前講座の推進
2. 小学校防災活動支援
 - ①地区自主防災組織との連携の推進
 - ②学校側との防災勉強会の提案
3. 福祉施設への防災活動の支援と推進
4. さぬき「防災友の会(仮)」の会員同士の情報交換と防災力のレベルアップを行なう。

※上記4点を重点項目として、取り組んでいきます。
ご支援、宜しくお願いいたします。

追記として「出前講座」を紹介します。

さぬき市危機管理課では、市民の防災意識を高め、地域の防災力の向上を図るため、平成29年から危機管理アドバイザーによる防災出前講座を開催しています。防災研修会等を開催したい自主防災組織や自治会等の要望にあわせ、地域の危険性やハザードマップの正しい見方、避難行動計画（マイタイムライン）についてなど、様々なテーマで防災に関する講話を行っています。



長尾地域 多和東部自主防災会防災訓練（令和4年6月19日）

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

最近の訓練を振り返って

(1) 先月号から1ヵ月間に丸亀城西高校、三豊市立財田小学校、更にはフジグラン丸亀の防災訓練を行なった。

本年度の訓練の特長は、家具転倒防止を重点的に行なっていること、県市町が積極的に展開しているにもかかわらず整備状況が今一步の感がしており、学校での訓練によって、家庭内で話題となって、この家具転倒防止の整備に前進することを期待するものです。

又、小学校児童を対象に「車イスの対応」訓練も加えており、家庭や地域社会の中で高齢者対応で車イスを扱う機会が多く生じてくると思います。車イス走行中、段差のある道路や下り坂での取り扱い基本をしっかりと体得してもらうことによって事故の減少につながるものと思っています。



(2) フジグラン丸亀営業中における地震災害を想定した避難訓練

- ・とき…令和4年11月16日(水) 10.00~10.20
- ・ところ…フジグラン丸亀 食品館
- ・参加者…フジ来店客 30名
自治会員 52名 保育所児童 20名
外国人実習 7名
- ・ふりかえり<反省>
指示、指導の音が小さい、大きな
ジェスチャーが必要
- ・その他 関係者の本気度を上げる事も
大切である



編集後記

12月の防災減災の輪は、かがわ自主ぼう連絡協議会さぬき市の皆様の原稿を掲載させていただきました。